

第156回 倉敷眼科臨床懇話会

日時 2023年9月14日(木) 19:00~20:20

場所 倉敷中央病院 第1会議室(外来棟3階)

1階外来ホールのエレベーターでお越しください。

19:00~19:20 当院から2題症例報告予定です

約3年振りの現地開催となります。日頃からお世話になっている地域の先生方にお目にかかれまことを心待ちにしております。 倉敷中央病院眼科 主任部長 西田 明弘



特別講演 19:20~20:20

「小児斜視弱視の病診連携」

演者 木村 亜紀子 先生 (兵庫医科大学 眼科学講座)

【特別講演要旨】

視覚の感受性期はヒトではおおよそ7-8歳といわれていますが、ピークは1歳半前後にあり、3歳頃までが非常に高いことが知られています。治療時期を逸したお子様が「小さい頃から眼科にはかかっていた」ということは非常に残念なことです。小さなわんぱくなお子様に「小さくて検査が出来ないから大きくなってからまた来てね」というセリフが当てはまらないお子様が居ます。では、どのようなお子様に注意がいるのか、どの時期に専門の施設に送る必要があるのか、その見極めが大切ではないかと思えます。小児では、自覚的検査(視力・視野検査など)ではなく、他覚的検査(調節麻痺薬下の屈折値、眼底検査)で治療方針を決めていきます。子供が「お利口さん」かどうかは関係ないのです。他覚的検査は必要時にはセデーションを掛けて行います。例えば、乳児内斜視は、無治療では視覚の感受性期は2歳には終わってしまいます。見つけ次第、専門病院へ受診させ、受診時年齢に合わせた治療目標に沿った治療が行われます。本講演では、すぐに専門病院への受診が必要な斜視、経過観察で良い斜視など、病診連携における注意点について、自験例を用いて解説します。

木村亜紀子先生ご略歴：

- 1994年 兵庫医科大学卒業
- 1997年 兵庫医科大学病院眼科医員
- 2003年 兵庫医科大学大学院卒業 兵庫医科大学眼科学講座助手
- 2008年 同 講師
- 2013年 同 准教授
- 現在に至る
- 2007年 日本弱視斜視学会学会賞中川賞
- 2010年 日本神経眼科学会学術賞

単位 眼科専門医単位：0.5単位 日本医師会生涯教育講座：1単位

専門医カードをお持ちの先生は、当日受付でご提示ください。